

# メンタルフレンド等の外部人材の活用 やピア・サポート等を通じた異年齢交 流など児童生徒の社会性を高める取組

～ピア・サポーターを活用した不登校児童生徒の教室復帰と新たな不登校の予防を  
目指す支援の在り方～

新座市教育委員会

## 1 新座市の概要

新座市は埼玉県最南端にあり、東京都心から約25km圏に位置し、東西約7km、南北約8km、総面積22.8km<sup>2</sup>を有している。市の中央北寄りを東西にJR武蔵野線が、北端を東武東上線が、南端を西武池袋線が通っており、県央や都心への交通が便利な市である。

市の中央部は、武蔵野の面影を今も残す野火止台地で、そのほぼ中央に臨済宗の名刹「平林寺」があり、約43万m<sup>2</sup>に及ぶ広大な敷地にある境内林は、国の天然記念物に指定されており、自然の宝庫となっている。

こうした特色から「都会の利便性と田舎の心地よさのある理想のまち新座」を目指しており、人口16万人余りを擁する首都圏の中堅都市として成長を続けている。

## 2 研究の構想

### (1) 研究のねらい（目標）及び研究テーマを設定した背景

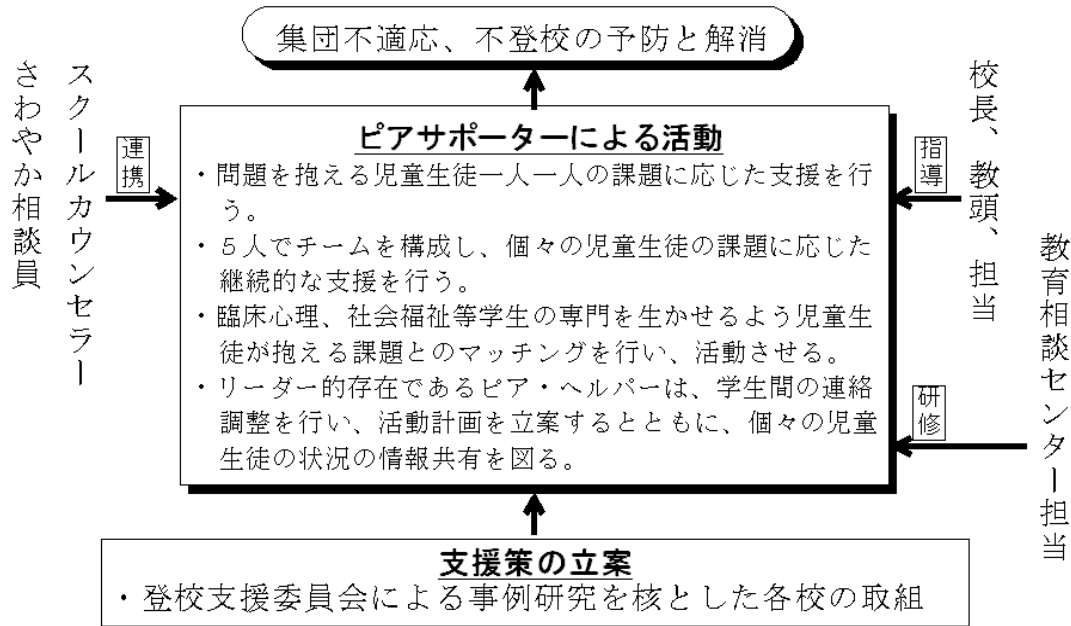
平成22年度の不登校児童生徒は、小学校31名（平成21年度23名）、中学校129名（平成21年度146名）であった。小学校においては、3年連続して増加となった。また、中学校においては、平成17年度の169名から減少傾向にあるものの、不登校の割合は依然として4%前後で推移しており、新たな対策が急務となっていた。平成23年度は、学校、さわやか相談員、市教育相談センター相談員の連携協力により、1学期の不登校児童生徒数は大幅な減少となった。2学期末では、中学校86名（昨年同期109名）と、取組の成果が現れていたものの、小学校においては20名（昨年同期17名）となり、昨年度を上回る増加となっていた。

市教育相談センターが中心となり、各小学校に配置されている子どもと親の相談員及び各中学校に配置されているさわやか相談員が連携し、担任と連絡を密にし、不登校児童生徒の未然防止及び早期発見・早期対応、教室復帰を目指す取組を行っていたが、保護者の無理解や無関心、発達障がい等に起因する問題等、不登校の背景にある課題は多岐にわたり、対応に苦慮していた。

以上の現状から、市内3大学（跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、立教大学）と連携し、ピア・サポーターとして学生を小学校及び中学校に派遣するとともに、個別のアセスメントに視点を置き、集団不適応、不登校な

ど個々が抱える課題に応じたきめ細かい対応と支援を行うことで、課題を解決していくため、本テーマを設定した。

(2) 調査研究の推進組織体制



(3) 研究内容

ピア・サポーターを活用した不登校児童生徒の教室復帰と新たな不登校の予防を目指す支援の在り方について研究する。

ア 担当指導主事は、ピア・サポーターの派遣について各大学の担当教授等と連絡調整に当たる。また、大学に出向き、学校におけるいじめや不登校の現状を話す機会を得ながら、講義等で、ピア・サポーターの活動意義等を広報する。

イ 応募学生が適切に児童生徒と関わることができるよう、教育相談センター相談員が派遣前の事前研修を行うとともに、派遣先の学校においては、スクールカウンセラーやさわやか相談員が助言をすることで自信をもって活動ができるようにする。

ウ 個別のアセスメントを生かした支援とするため、各校登校支援委員会で実施する事例研

### ピアサポーター研修資料

新座市教育委員会教育相談室

1 ピアサポーターのねらい

ピアとは仲間・同士という意味。ピアサポートとは仲間同士の助け合いのことです。


不登校や集団不適応児童生徒への支援のために、大学生・大学院生が「身近なお兄さん・お姉さんの存在」として、児童生徒の心のケアや学習面の補助、人間関係作りのスキル獲得のためのサポートを行います。

ピアサポーター活動は、子どもと直接ふれあい、学校の先生方と連携をしながら子どもの心理的発達を支援を行うものです。将来、心理・教育・養護等の領域で子どもと関わりたいと考えている人にとっては、とても貴重な体験となるでしょう。

2 ピアサポーターの活動内容

ピアサポーターの活動内容は学校によってさまざまですが、主に次のようなことを行います。

- ・教室で、クラスの子ともたちと触れ合ったり、特定の児童生徒の個別対応をしたりします。
- ・相談室や別室で、児童生徒と話をしたり、個別の学習面の支援を行います。
- ・ふれあいルーム(新座市教育相談室に併設されている適応指導教室)での学習補助・調理実習・遠足などの行事へ参加することもあります。



3 ピアサポーターとして学校に配置されるまでの流れ

- ① 「ピアサポーター志願調書」を提出(大学又は新座市教育相談室へ)
- ② 教育相談室でのピアサポーター事前研修(大学等の説明会に参加した場合は免除されます。)
- ③ 活動場所(学校)、活動開始日の決定、書類(口座振込依頼書、誓約書)の提出(新座市教育相談室)

<研修資料・抜粋>

究において立案される支援策に沿った活動をピア・サポーターが行う。

エ ピア・サポーター5人程度でチームを構成し、リーダー的存在であるピア・ヘルパーを中心に情報共有を図り、継続した支援を実践する。

オ ピア・サポーターの役割

- ① 欠席しがちな児童生徒への積極的な声かけと学習支援について
  - 本人を取り巻く環境の理解
  - 不安・緊張の解消
  - 楽しさがあり承認される体験
- ② 教室復帰後の継続的な支援について
  - 適切な表現活動
  - 社会的スキルの獲得



<適応指導教室における支援の様子>

#### (4) 検証の視点、方法

ア 検証の視点

- ① 不登校児童生徒の割合を県平均以下とする。具体的には、小学校 0.25 (平成23年度 0.30)、中学校 2.50 (平成23年度 2.72) 以下とする。
- ② 不登校児童生徒のうち、教室復帰の割合を60%超にする。

イ 取組の検証方法

- ① 当該児童生徒及び保護者への面談による効果的な支援の把握 (指導主事、身近な相談員)
- ② 派遣校訪問による活動状況把握 (指導主事)
- ③ ピア・サポーターとの情報交換及び指導助言 (指導主事、身近な相談員)
- ④ 学期ごとにおける長期欠席調査 (各小・中学校)
- ⑤ ピア・サポーター活動状況調査 (指導主事)

### 3 研究の取組事例

#### (1) ピア・サポーターのチームによる派遣

ピア・サポーター5人程度を1つのチームとして編制し、要請のあった学校へ派遣した。チームの調整役の学生をピア・ヘルパーとして指名し、学生の専門性 (心理、人文) と児童生徒が抱える課題 (不登校、集団不適應等) が合致するように活動を行わせた。

《活動例》

- ① 相談室登校をする児童生徒 (以下 A) の支援のため、毎日1名ずつピア・サポーターが寄り添った活動をする。
- ② 1日3時間の活動のうち、2時間は A の支援、残り1時間は、A の所属学級の学習支援等を行う。



<教室における学習支援の様子>

③ Aの様子を所属学級に、所属学級の様子をAに伝えることで双方をつなぐ役割を担う。

④ ピア・ヘルパーを中心とした情報共有により、ピア・サポーターは同一の内容による支援を行うとともに、教室復帰に向けた刺激を共通に与えるようにする。

⑤ 教室復帰後は、A及びAの所属学級において活動を継続し、円滑な人間関係が築くことができるよう支援活動を行う。

**記載例**

(様式3) **ピアヘルパー制度におけるピアサポーター連携記録**

日付	児童生徒 (学級)	活動内容及び配慮事項等	ピアサポーター名	担当教員 確認
6/4 (月)	A・B (3-2)	・相談室では、話しかけても表情が硬く、返事が返ってくることはなかった。 ・信頼関係を築くために、学習支援を丁寧にを行った。	〇〇 〇〇	
6/5 (火)	A・B (3-2)	・信頼関係を築くまでには時間がかかりそうだが、質問されたことをきっかけに話しかけたら会話が成立した。テレビドラマの話をしていたので相棒の〇〇に興味があるのかも知れない。	△△ △△	
6/6 (水)	A・B (3-2)	・午前中は、集中して学習に取り組めた。 ・給食は、教室まで取りに行くことはできないが、食事中は、テレビドラマの話などで会話がはずみ、楽しく過ごせたようである。	□□ □□	
✓				

＜ピア・サポーター連携記録・記載例＞

(2) ピア・サポーター研修会の実施による支援方法の共有化

- ① 市内大学（跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、立教大学）に指導主事が出向き、ピア・サポーターの活動について事前指導を行い、活動の価値に気付かせるとともに、基本的な支援方法を指導した。
- ② 各学校配置時は、サービス及び支援の実際について教育相談センター相談員が研修を行った。
- ③ 跡見学園女子大学、十文字学園女子大学において、ピア・サポーター活動報告会を開催し、学生が相互に支援方法の共有化を図れるようにした。

#### 4 研究成果及び今後の課題

(1) 研究成果

ピア・サポーターの活動と研修会を連動させることで情報が共有され、不登校や集団不適應等への対応、支援策が効果的なものとなった。また、市登校支援委員会が事例研究により立案する具体的な支援策を教員とともにピア・サポーターが継続して支援する環境が整ったため、不登校児童生徒数の減少と教室復帰が期待されている。



＜相談室における支援の様子＞

(2) 今後の課題

ピア・サポーターが支援できる児童生徒は、不登校傾向もしくは断続的な不登校、相談室登校など、ある程度登校できる状況にある者に限定される。しかし、継続して不登校となっている児童生徒への関わりは、きっかけづくりが難しく、信頼関係構築に向けたプロセスは手さぐり状態のままである。今後は、そうした児童生徒の保護者への理解を深めるとともに、ピア・サポーターの活動をこれまで以上に広く周知し、その支援に期待を持たせるなど、制度をさらに改善していく必要がある。